

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
言語表現 I Language expression I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤美智子	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
言語表現の持つ意義を深く理解し、乳幼児期に必要な言語の習得に向けた様々な媒体を体得することで、保育現場に行かせつ生きた技術を身に付け、児童文化財の持つ特質を活かした実践の習得を図る。				
授業の目標				
①乳幼児期の言語獲得のためのプロセスと必要な環境を学ぶことができるようにする。 ②絵本・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇などの表現媒体の特色を学び実際に実践の場を踏み保育現場で活かせるように実践力を身に付けることができるようにする。 ③言語表現媒体を学ぶことは、製作と表現力が要となる。様々な媒体を知り、熟知することで年齢に応じた的確な言語指導へと向かえる応力を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
実践を主とした講義形式で行うが、各自が「考え行動する授業」としたいので、様々な意見交換を行い、製作にはオリジナル作品の製作及び発表ができるようにする。製作と発表を交互に行うため、毎回の授業を受け身ではなく、積極的に取り組み、指示された時に言語表現発表が図れるようにする。また、定期的にノートやファイル等授業のまとめたものを提出できるよう心得る。				
学習の成果（学習成果）				
①乳幼児期の言語媒体を多く学び、絵本・パネルシアター・人形劇・エプロンシアター・紙芝居・ペーパーアート等の媒体の、それぞれの特徴をつかみ表現することができる。 ②社会活動としての場においても、一般の親子に表現媒体を公演という形で実践行動することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の説明・提出ノートなどの期限等の説明）			
第2回目	パネルシアターの実際（製作①）：パネルシアターを観る体験・制作する作品を選ぶ			
第3回目	パネルシアターの実際（製作②）：製作の実際（下絵を描く）			
第4回目	パネルシアターの実際（製作③）：製作の実際（型紙を作る）			
第5回目	パネルシアターの実際（製作④）：製作の実際（描く・切る）			
第6回目	パネルシアターの実際（製作⑤）：製作の実際（描く・色づけ）			

第7回目	パネルシアターの実際（製作⑥）：製作の実際（描く・配置の工夫）
第8回目	パネルシアターの実際（製作⑦）：製作の実際（演じ方の練習）
第9回目	パネルシアターの発表：自身の作品の発表
第10回目	エプロンシアターの実際：様々なエプロンシアターを知る
第11回目	エプロンシアターの発表：実技発表
第12回目	絵本の世界について（さまざまなカテゴリー別絵本を知る）
第13回目	絵本の読み聞かせについて①（読み聞かせの実際を見る）
第14回目	絵本の読み聞かせについて②（読み聞かせに向く本向かない本の選別）
第15回目	言語表現の春期まとめ（パネルシアターとエプロンシアター、絵本の発表）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	欠席の場合は必ず欠席届を提出する。 提出課題をこなすこと。
レポート	30%	各自がまとめたノートまたはファイルを指示された時期に提出する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	授業はしっかりと望む。私語厳禁。実践を多く踏むために発表に積極的に臨む。
その他	10%	社会的活動に対して、積極的に行動している。

教科書と参考図書

授業担当者より適宜指示または資料などを配布する。

履修上の留意点・ルール

目的意識・課題意識を明確にして、積極的に授業に臨み学ぶこと。遅刻厳禁。